

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 博愛福祉会	代表者	大西 弘文
事業所名	小規模多機能型居宅 介護 ゆとり庵 鷺尾	管理者	赤宗 尚弥

法人・事業所の特徴
 1. 新たな挑戦を続けます。2. 日々の出会いに感謝します。3. お客様に最善を尽くします。
 4. 信頼できる仲間を作ります。5. 健康に働ける環境を追求します。・「通い」「泊り」「訪問」を組み合わせた月額制の在宅支援サービス。

出席者	市職員	知見を有する者	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	人	人	7人	1人	人	4人	人	12人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	できていない部分に関して、なぜできていないのかという所を考える。	特に地域協働・参画において、できていないのと考える職員が多かったです。	9つのテーマのうち2.4.6.8についてあまり出ていない、殆ど出ていないと回答した方が多い為、チェック項目の再検討や皆さんが取り組みやすい仕組みを考えたいと思います。	出来ていない部分をさらに精査し、ミーティング等で検討し取り組む。
B. 事業所のしつらえ・環境	コロナ禍においても可能な限りご家族様にゆとり庵での様子がわかるような工夫をする。	日々の活動の様子など、写真を撮りご家族様にお渡しするなど、ご様子が伝わりやすい形で対応するよう努めた。	訪問した際に意識して見てはいなかったものの、母が安心した子供のような顔をしていると感じたことがあります。日誌を読むと日々の様子が見える。写真も沢山でありたいです。	ご家族様の訪問などを積極的に受け入れ、皆が安心して過ごせる環境を維持していく。
C. 事業所と地域のかかわり	地域の活動や、会議により積極的に参加するようにする。	生活支援協議体等、可能な限り参加させていただいた。数回、地域の交流の場にご利用者様をお連れした。	ゆとり庵が行っている地域活動について発信してもらおうとわかりやすいと思います。	地域活動を通じ、今以上に地域での認知度を高める取り組みを行う。
D. 地域に向いて本人の暮らしを支える取組み	コロナ渦においても、できる限り地域に向いて交流ができる工夫をする。	地域の祭やイベントにご利用者様をお連れするなど、可能な範囲で交流することに努めた。	様々なイベントや季節を感じるようなドライブに連れられて下さり、自宅では出来ない刺激がありリハビリになっていると感じています。	積極的に地域に出向き、イベント参加や地域資源を活用していく。
E. 運営推進会議を活かした取組み	今後は、実際に会議を開催できるようにする。紙面上であるなら、もう少し意見を頂けるような方法をとる。	今年度は1度対面で実施し、様々なご意見や生の声を聞くことが出来た。	今年度は1回対面形式で事業所内で開催したので、様子がよくわかりました。ミーティングや運営推進会議を定期的に行い情報共有していただいていることがわかりました。	対面形式の運営推進会議を実施し、意見をもとにサービスの質向上に繋げていく。
F. 事業所の防災・災害対策	防災・災害対策をしっかり整理しておく。	業務継続計画(災害時)を策定。物品の購入等進めている。	どのように取り組んでいるのかわかりません。防災に関してどう準備したらいいのかわからない為教えていただきたい。	定期的に業務継続計画の見直しをし、物品等の不足無い様管理していく。